

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	令和6年12月18日		～ 令和7年1月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	令和6年12月18日		～ 令和7年1月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	令和6年12月18日		～ 令和7年1月10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・訪問支援員として、経験年数が5年以上の保育士を配置し臨床心理士と共に訪問している。	・心理士・保育士の目線から園や保護者に寄り添った対応をしている。 ・保育士の経験をもとに訪問先職員に寄り添いながら対応している。	アセスメントシートを導入していく。
2	・訪問先の環境や職員の意見を尊重して、支援方法を考えていけること。 ・園や保護者に寄り添い、訪問先の環境を考慮しながら支援方法を考え関わっている。	・丁寧な聴き取りを心掛け、訪問先の職員の対応を確認し、今できる対応方法を一緒に考えている。 ・保護者や園の思いを大切に、話し合いは状況に合わせて進めている。取り組みの中でよかった支援については振り返りの中で積極的に伝えている。	事後フォローの強化。
3	・他機関（保健センター、こども家庭センター、市立病院）との連携、情報共有。	・保護者に確認をとり関係機関との情報共有をして、より良い支援を考えている。	関係機関との連携を深める。他事業所も併用している場合は、情報共有しながら連携し、繋がりのある支援を考えていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・児の発達や適応度を素早く適切に把握できているのか定かではない。聞き取りや観察による評価のため、時間がかかっていると感じる面もある。 ・専門的な観点から多面的に児の様子を捉える視点が弱い。	客観的な指標となるアセスメントシートがない。	・客観的な指標としてアセスメントシートを導入することにより多角的に捉えたり前期後期の振り返りがしやすくなる。 ・職員のスキルアップのため研修等に参加する。
2			
3			